

11月14日（金）5・6限、国際理解コース3年生の学校設定科目「日本文化研究」において、『きもの着方教室 いち溜』の皆さまによる着付け体験の授業が行われました。

授業では、着物の歴史、種類、文様に込められた意味だけでなく、何代にもわたって着続けられるという点からSDGsとの関連についてもお話しいただきました。文様の説明では、人気作品『鬼滅の刃』に登場する柄にも触れていただき、衣装設定やキャラクターづくりに意味を持たせることで世界的に評価される作品となっていることなど、身近な話題を交えて解説していただきました。

また、反物に実際に触れながら、「平和だからこそ文化は発展する」「小物の組み合わせによってフォーマルからカジュアルまで楽しめる多様性のある衣服である」「サステナブルという言葉が広まる以前から、日本では親子三代、100年以上着られる着物文化があった」など、印象深い言葉を多く伺うことができました。

6限目には、実際に生徒自身が浴衣の着付けに挑戦しました。自分の力で浴衣を着ることができた生徒たちの表情は明るく、達成感に満ちていました。男性用の浴衣は比較的着付けが簡単なため、複数回練習を重ねることもできました。最後には、帯紐の扱い方や浴衣の畳み方まで丁寧に教えていただき、学びの多い有意義な時間となりました。

